

指導教員名	山口 志郎
-------	-------

活動区分	情報分析型	連携先	企業
	調査型		

～ レッドハリケーンズ大阪観戦者調査プロジェクト ～

活動の様子



企画・活動概要

本社会共創活動では、レッドハリケーンズ大阪と協働しながら、スタジアムでの観戦者調査を行い、集客増に向けた基礎資料を得ることを目的とした。本企画は2022年度からの継続的なプロジェクトであり、2024年度は3月31日にヤンマースタジアム長居にてアンケート調査を行った。収集したデータを分析し、報告書を作成しながら、6月18日にレッドハリケーンズ大阪のスタッフに対して、報告会を実施した。その後、報告会のデータを再分析し、10月26日に日本生涯スポーツ学会第26回大会 in 流通科学大学において3題ポスター発表を行った。

経緯・背景・目的

流通科学大学では、2022年12月16日にレッドハリケーンズ大阪と、教育・スポーツ振興に関する連携協定を締結した。本協定は、教育・研究・医療・文化およびスポーツの振興、人材育成、社会貢献などの分野において相互に協力し、双方の発展と充実に寄与することを目的としている。本社会共創活動では、連携協定の一環としてレッドハリケーンズ大阪におけるスタジアムでの観戦者調査を通じて、マーケティング分析のサポートを行うことにある。



取り組む課題

ジャパンラグビーリーグワンは3つのDIVISIONに分かれており、2021年度までチームはDIVISION1に在籍していたが、母体企業のNTTDコモの編成上の理由により、2022年度はDIVISION3からの戦いとなった。2024年度現在はDIVISION2に所属している。DIVISION1に比べ、観戦者数が減少するなど運営上の問題を抱えており、今後どのようにファンを獲得し、持続可能なチームにしていくが課題である。そのため、今回の観戦者調査を通じて集客増に向けた基礎データを獲得することで、今後のマーケティング戦略の立案が可能となる。

本学(学生)の役割

ゼミ生の役割はスタジアムでの観戦者調査に向け、アンケートの設計を考えると共に、3月31日にヤンマースタジアム長居においてアンケート調査を行うことであった。アンケート調査の方法は2023年度と同様に、オンラインと紙の両方を用いるハイブリット調査にて実施することとなった。スタジアムでのアンケート調査では試合会場の入口付近にブースを設置し、その前でゼミ生が声をかけながら、紙またはオンラインにて回答頂くよう依頼した。最終的に回答が得られた観戦者に、ノベルティをお渡し、御礼を述べ、各回答者よりアンケートを回収した。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回プロジェクトに参加したゼミ生は3回生であった。2024年度は得られたデータを基にSPSSによるデータ分析を行い、分析力を養うことに尽力した。また、学会発表や担当者に対して、プレゼンテーションを行うことから、ポスターやパワーポイント作成などプレゼンテーション能力向上もゴールとした設定した。その結果、上記の2つの能力を身につけると共に、日本生涯スポーツ学会第26回大会 in 流通科学大学での発表を通じて、聴講者より質疑応答もあったことから、コミュニケーション能力向上という成果も挙げられた。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
教授
山口 志郎 (ヤマグチ シロウ)

<専門・担当科目等>
スポーツマネジメント、
イベントマネジメント、
都市政策・まちづくり

<関係者・企業等>

レッドハリケーンズ大阪
マーケティングリーダー 兼 広報
オロ 将太 (サイグチ ショウタ)